

猫蓑通信

第 113号
特大号
令和二年
(2020年)
9月10日発行
(年4回発行)

夢の古清水

根津芦丈 六十七しるす

山寺の里、楡沢[※]といふ処に清水あり。駒のか
けおく広さもなけれど〇〇^マの雫にはまさりて、
野良人の茶樽浸しつべき三尺ばかりの外は池し
けり。湧き出る水溢れて水晶を流し、清冽涼涼
いまだ掬はざるにはや齒に響くの思ひあり。里
人呼んで夢の古清水と云ひ、又單に古清水とも
云ふ。何に抛りて斯く呼べるか口碑伝説の外に
徴すべき何ものもあるなし。

此地三方に段丘をひかへ、南方遠くうち開け
て南伊大半の炊煙[※]を詠むべく、西駒は西に聳え、
東駒は東に尖りて、千丈の雄姿あらはに、白根
三山はとほ雪の班を残す。鋸山は鋸の如く、朝
与は浅く此の間に挟まる。荒川・塩見は高鳥谷
に隠れ、十蔵は僅かに頂を現はして伊那富士の
名をほのめかす。一眸総て山ならざるはなく、
四時容[※]をあらためて人を樂しましむ。

清水の末の落ち入りて流れ去る処を福沢洞と
いふ。懐かしく潤ひもてる窪地にして、川を鳥
谷川といふ。南洞[※]に落ち、矢ノ田・棚田のあは
ひをくねり、押し出しに押し出して、天竜川に
注ぐ。

後の丘を鳥居原と云ひ、西方の丘を経塚原と
云ふ。北に御前窪・神林[※]あり、東に踊面、続い
て原垣外・石塚あり。これみな先住民族の遺跡
にして、土器・石器の発掘さるるもの頗る多し。
先住の彼等、既に此清水を愛用せしものにや。
今に遺れる雉兔たちの径も彼らの朝な夕なに通
ひしものの其のまま今に及びしものにあらざる
か。古代のことまことに茫々夢の如くにして、
夢の古清水の名、勝れて懐かしきものの限りな
らずや。

今この銘泉の空しく忘れ去れんことを惜し
みて、草を拓き、砂礫をさらひ、石臼の古きを
沈めて底となし、周囲に石を並べなどして、〇^マ
の響を改め、傍に塚を築き、芭蕉翁の高詠を
石に彫り、しるしとして永く後世に伝へんと云
ふ。人々のこのころの優にやさしき、この清水を
共に語りつぐべきなりけらし。

昭和十八年執筆。昭和四十四年十月十五日発
行の長野県伊那市山寺区誌『山寺』に掲載。

●注

※「楡沢、福沢洞、南洞、矢ノ田、棚田、押し
出し、鳥居原、経塚原、御前窪、神林、踊面、
原垣外、石塚」すべて、芦丈翁の結ばれた芋庵の

所在地、信州伊那、山寺区の^{こあざ}小字名として当時の古
地図に見える、現在は消滅した地名。「洞」とは信
濃方言で窪地のこと。地名の多くは信濃方言による
地形の形容なので、長野県内各地にこれらと同じ、
あるいは類似の地名が散在する。

※「〇〇の雫」出典に判読不能としてこう記載。
後出の「〇〇の響」も同じ。

※「炊煙を詠む」高所から広く眺め渡す意。『古
事記』所収の仁徳天皇御製歌にちなむ。

※「朝与峰」早川尾根の一部、眺望のよい峰。

●解題

根津芦丈翁は、猫蓑会設立主宰・東明雅師の連句
の師。『幻住庵記』を彷彿させるこの一文は、芦丈
翁の孫の猫蓑会同人・根津忠史氏が発見したもの。
翁の主宰誌『山襖』、著書などにも掲載されていない。
翁の数え歳六十七歳は昭和十八年。この年、スター
リングラード攻防戦で独伊軍が敗北、日本軍がアッ
ツ島で「玉砕」、イタリアが連合軍に降伏。第二次
世界大戦での日独伊三国同盟の敗色が深まる中、日
本では徴兵年齢が十九歳に引き下げられ、官民一体
の敗色隠蔽、戦意高揚の宣伝がますます国を覆いつ
つあった。そのような折、あるいは亡国の兆しを感
得されてのことか、故郷の山河の美しきを讃え、あ
えて時世流行を超脱する、風雅不易、珠玉の俳文を
残された芦丈翁の心術に学びたい。まさに「紅旗征
戎吾ガ事二非ズ」(藤原定家『明月記』)。

この区誌『山寺』が発行された昭和四十四年は、
翁が九十五歳で亡くなられた翌年。忠史氏によれば、
宅地開発された現在の山寺区には、「夢の古清水」
はもろろん、ここに描かれた地形その他、当時の面
影はほとんど残っていない。貴重な記録。(斎)

巴里祭の座

歌仙「久闊を叙す」 佐々木有子 捌

久闊を叙するグラスや梅雨晴間 有子

庭の小池に鯰顔出す 肇

里山に遊び盛りの子等寄りて 鑑

おやつタイムと配る飴玉 雅子

月皓々オアシス都市の白き壁 肇

肥えたる馬はどつしりと立つ

行き先は内緒のままの茸採 有

上司の秘書を誘ふカラオケ 鑑

気づかれぬやうに縮めるディスプレイ 有

牛乳で消す口紅のしみ 肇

木枯に座敷童も震へてる

母のぬくもりねねこの月 雅

コッコツと基礎を重ねてノーベル賞 肇

平凡であることの幸せ 有

衆生みな見守りたまふ盧舍那仏 雅

世界の願ひ景気回復 鑑

訪へる人もまばらに花の里 有

杓子貝もてよそふ味噌汁 肇

ナオ 日の永き浜の真砂の鳴ける音 鑑

歌舞伎役者の若き後継 雅

姉さんが産みの親だとあかす父

夢と現とごちやまぜになる

宮入の三社祭は最高潮 有

ホストクラブに遅咲きの恋

やうやくに呼び捨てにしてくれたのね 鑑

正成の佩く小龍景光 肇

安倍川の餅皮厚くあんもなし 鑑

盲導犬がずつと友だち 雅

オリンピア勝者たたへる月の影 肇

オリーブの実の繁る島々 有

ナウ もてなしは漬物づくし秋の宿 雅

出湯に浸かり思ふ行末 鑑

あの頃の新聞紙にはルビのあり 有

金ペンいづこ漱石の墓 肇

花めぐるこなからの酒友として 鑑

画架を持ちだす囀の中 有

連衆 宇田川肇 荒木鑑 武井雅子

神田祭の座

歌仙「ひさかたの」 若林文伸 捌

ひさかたの光に浴す梅雨晴間

白磁小鉢に映ゆる桜桃 文伸

土産品銘に産地を名乗らせて 霞

早口ことばすらすらと言ふ 転石

水門の少し開きたる望の月 香織

えんま蟋蟀鳴く堤下 あき子

小松姫武者行列のさはやかに 霞

控へ目ながら自慢する親 織

AIに勝ちにゆけるか囲碁将棋 石

ウ

●第百十三号目次●

◎夢の古清水 根津芦丈 1

◎第三十回猫養同人会歌仙 五巻 2

・爽楽庵豆知識……①外国地名漢字表記 2

◎第二十九回猫養同人会歌仙 五巻 5

・爽楽庵豆知識……②外国地名漢字表記 7

◎第二十八回猫養同人会歌仙 七巻 8

・爽楽庵豆知識……③外国地名漢字表記 11

◎善光寺門前連句会のこと 竹中禎子 12

◎第百四十四回例会 平成三十年初懐紙歌仙 九巻 14

・爽楽庵豆知識……④熊本弁入門 18

◎温故知新 21…ラヴィ・シャンカルの序破急 19

◎事務局だより 20

爽楽庵豆知識……① 外国地名漢字表記

以下は、神楽坂連句会を主催する爽楽庵倉本路子さんが「豆知識」として神楽坂連句会で配布された資料を再編集したもの。①③は、国名、都市名、地域名などの漢字表記。「ビルマ」「サイゴン」など、現在は既に変わってしまった国名、都市名もある。多くは個別に検索できるものだが、まとめて見ると味わい深い。ハリウッド「聖林」の「林」は意識、ベルリン「伯林」の「林」は表音、サクラメント「桜府」の「桜」は訓読みの和語、といった具合の、良く言えば臨機応変、悪く言えば御都合主義は、万葉仮名の自由自在にも通じるものがあり、眺めているだけで楽しい。七頁②、十一頁③と分割して掲載。十八頁の④は書き下ろしの「熊本弁入門」編。

葵祭の座

歌仙「充電中」

田中秀夫 捌

葉の裏に充電中の蛍かな 秀夫
やつと発見はしやぐ裸子 富子
バスタオル色やはらかに畳むらん 孝子
一筆に描く遠き山並 徹心
有明の月を見上げて出勤す 富
ぎんなん数多降らす街路樹 孝
重陽の丘に登りて応援歌 富
内定通知ゲットした日よ 心
初恋に胸痛めしも懐かし 孝
今もかはらず爪立てる癬 心
君寵を第三夫人ほしいまま 孝
フルーツの味愛でるドロップ 富
足跡の絶えた所に狐罨 孝
森黒々と風疼く月 美奈子
便りきて巴里の場末に唄ふとか 奈
そこばくの金酒に消えゆく 孝
鼻の差で牝馬の浴びる花吹雪 全
立ち乗りをして漕げるぶらんこ 心
ナオローカル線異国語の客のどらかに 孝
古代遺跡に湧きかへる村 奈
地母神の沖を見据える腰豊か 孝
鼓のうまい年上のひと 奈
暗転に揃ひ浴衣を脱ぎ捨てて 富

惚れた極みに光る匕首
怨念の石も破るか総裁選

出るに知られず詰まる首都高

テレワークテレ飲み会もリビングで

稼業の足を洗ふ兄さん

警策の眠気を覚ます堂に月

豊越え行く雁の一連

ナウ父母を思へば軽し稲を刈る

パリンピックみんな頑張れ

医師介護士励ますブルーインパルス

無重力とは味気なきもの

花仰ぐ花の詩集を枕とし

見渡す埠頭ゆるる陽炎

連衆 名古屋富子 坂本孝子 佐藤徹心
鈴木美奈子

祇園祭の座

歌仙「西郷像」

菅原通斉 捌

着流しの西郷像や夏つばめ 通斉
梅雨曇なる藹々の空 魚彦
パレットに色の調整きりもなし 敦子
濃いめに淹れるデカフェコーヒー 千恵子
笹竹でひとり占ふ月の顔 待雪
蕙のからまる洋館の窓 敦
うそ寒にSL走るプラレール 千
予防接種の通知届きぬ 敦
免疫のなくて手が触れ恋に落ち 千
ダーク・レディーは婉然と笑み 待

蠟燭をつければ鶴の鳴く今宵
納涼映画中天に月

廃校に低く残れる水飲み場

縄跳をして励む減量

リモートで頑張る人にありがたう

誰の心も神さまが棲む

花に酔ひ夢に酔ひたる別世界

みどりの日には親子遠乗り

ナオ耕牛はたまに尾つぽで尻を打つ

汁かけ飯も小昼間の足し

閑取は画面いつぱいCMに

ドローンで運ぶ山峡の文

もてなしは女将の活ける寒椿

仏師の刀魂を込め

親方の隙を盗んで逢引し

ほうほうほうと呼ぶが合図よ

迷つてる保険の名義どうするか

はんこ文化も再考の時

望月に国芳の猫くつろげる

後の雛など知らぬ若者

ナウ万妖祭つけ爪赤く長々と

ちと出しにくいじゃんけんのちよき

電子辞書マークの告げる電池切れ

しゃべりながらに曲るトラック

懐かしき竹馬の友と花の宴

うららの浜で拾ふ貝殻

連衆 御園魚彦 武井敦子 鈴木千恵子
松島待雪

令和元年六月二十三日 首尾
第二十九回猫養同人会作品 1〜2

朝霧の座

歌仙「脳髓に」

青木泉子 捌

脳髓に呼応するかや梅雨の雷
四葩ゆらゆらそれぞれの色
オードブル無釉の皿に供されて
かくれんぼするカーテンの陰
叢雲の流るる中を月さやか
狗尾草が脛をくすぐる
地芝居は満員御礼立見席
幼稚園児の背比べして
後輩が俺より先に係長
お店の裏に待ち兼ねるママ
イミテーションなれど嬉しいイヤリング
平和条約つひに調印
軒先にふくら雀が飛んで来る
火傷しさうな爛酒に月
ひよつとこの面打つ技は世襲にて
状差にある達筆の文
花吹雪二・二六の魂鎮め
独りそぞろにかぎろひの道
ナオ男にも春の日傘がはやるらし
無地に水玉経緯の縞
敦煌に古い木活掘り当てて
防犯カメラに撮られたる怪
AIに囲碁も将棋も屈服し

雄 史 千 葵 史 雄 肇 千 史 葵 史 肇 葵 全 肇 史 千 英雄 千恵子 葵 肇 忠史 泉子

あなたとわたしはうたの恋

簾枕乱れてふたつ部屋の隅

顔を洗つてまた眠る猫

新しき力学論のひらめいて

漬物石は軽くしようか

月の客里の土産を両の手に

前の帝は鯨を觀察

ナウフルートのトリルの調べ秋麗

告解室の空気やさしく

三の日は孫と一緒に町掃除

ドラフト会議夢はふくらむ

花の庭開門告げるアナウンス

佐保姫ゆけばかすみゆく山

連衆 根津忠史 宇田川肇 石川 葵

鈴木千恵子 鈴木英雄

つばらつばらの座

歌仙「漱石邸」

棚町未悠 捌

十葉の庭白々と漱石邸

傘持ち歩く梅雨入りの頃

町工場ミクロの技を競ひて

水晶玉は名前いろいろ

文人の印譜蒐むる月の窓

ヴィオロンの音に醸す葡萄酒

ピアス揺れ笑み爽やかに駆けて来る

電話しようか文を書こうか

年の差婚教授と生徒ひた隠し

美形揃ひの秘書室の中

身じろぎす膝に来る猫重たくて

暴騰続け休止する株

しばらくを墓と語れる冬日和

焼きたてパン屋凍つる有明

ユニクロのTシャツ狙ひ爆買ひし

鴉は竿に仲間呼び合ふ

来年は廃校決まり花盛り

色鉛筆を削る春宵

ナオ山笑ふ大和国原写生して

木喰仏に心あらはれ

海荒れて漁師の浜の昼餉刻

差しつ差されつ煮込み肴に

浅草の浪曲天保水滸伝

酸漿市に彼とふたりで

くつきりとうなじに黒子恋浴衣

船にまかせて黙深くある

パンダの仔帰国予定を談合し

シネマ歌舞伎も観ごたへのあり

登場す名脇役の月の宴

母の自慢の平茸の飯

ナウウインドに絵皿一枚秋深し

九九を唱へる露天風呂にて

江戸古地図辿る水運楽しめり

戸が開いてます電子音鳴る

禅寺の回廊巡り花篝

夢の如くに群れて飛ぶ蝶

連衆 青木秀樹 上月淳子 岩崎あき子

高橋豊美 長坂節子

於 新宿ワシントンホテル新館

乃 敦 乃 夫 健 齋 乃 有 全 健 有 夫 全 齋 有 乃 夫 齋 有 健 乃 有 夫 齋 有 健 乃

紫野の座

歌仙「慰霊の日」

江津ひろみ 捌

ハードロック流れ沖縄慰霊の日 ひろみ

珊瑚の海を渡る荒南風

孝子

道具屋は小さき金槌並べゐて

酔山

長きお喋り軒先を借り

俊子

踏切の音の向かうに昇る月

徹心

細かく刻むオクラ ピーマン

一枝

赤い羽根挿しままごとのお客様

心

痴話喧嘩など犬も食はない

孝

セクシーな婦人警官つけ睫毛

山

巴里の孤独を癒やすムーラン

孝

抽象画何時か売れると夢捨てず

心

月も凍つるよ地震の襲へば

孝

親方のきりりと結ぶ松飾

俊

神も仏も拝むおふくろ

枝

俺以外みんな落選入場券

山

駿馬は目指す地平ひたすら

孝

開拓の三代揃ふ花筵

枝

木の芽田楽人肌の酒

み

ナオ 宗匠の衿詰めて着る春袴

俊

八村塁の熱烈なファン

み

旅ランで血糖値まで正常に

山

鴉が帰る黒い魔の森

孝

羽斑蚊白粉の香が大好きで

全

令和元年八月二十三日 首尾
於 新宿ワシントンホテル新館

背中合はせに入る菖蒲湯

名を聞いたそれが御縁で五十年

金継の碗国宝の志野

山

曼荼羅の諸尊の印に魅せられて

俊

新幹線にやつと間に合ふ

枝

月の下審議終へたる委員会

心

二重帳簿の出でて冷まじ

全

ナウ 衣被するりと喉を通り抜け

孝

右の耳より親の教訓

心

YouTube 動画に知り合ひが映る

枝

舞台に立てば水を得た魚

俊

花の雲の上に聳ゆる天守閣

み

紙飛行機の浮かぶ弥生野

枝

連衆 吉田酔山 三木俊子 佐藤徹心

山

西田一枝

西田一枝

爽楽庵豆知識.....② 外国地名漢字表記続き

オーストラリア◎ 濠太刺利

◎ 国名

オーストリア◎ 奥太利

◎ 都市名

オックスフォード◎ 牛津

◎ 都市名

オランダ◎ 和蘭・阿蘭陀・和蘭陀

◎ 都市名

カナダ◎ 加奈陀

◎ 都市名

カリフォルニア

加州

カンボジア◎

柬埔寨

キューバ◎

玖馬

ギリシャ◎

希臘

ケンブリッジ◎

劍橋



ゴア 臥亜(インドの州)

サイゴン◎ 西貢・柴棍(現ホーチミン)

サウジアラビア◎ 沙地亜刺比亜

サクラメント◎ 桜府

サンパウロ◎ 聖保羅

サンフランシスコ◎ 桑港

シアトル◎ 舍路

シカゴ◎ 市俄古

シベリア 西比利亞

シヤム◎ 暹羅(現タイ)

ジュネーブ◎ 寿府

シンガポール◎ 新嘉坡

スイス◎ 瑞西

スウェーデン◎ 瑞典

スコットランド

スペイン◎ 蘇格蘭

セルビア◎ 西班牙

タイ◎ 塞耳比

チリ◎ 泰国

デンマーク◎ 智利

ドイツ◎ 丁抹

トルコ◎ 独逸

ニュージーランド◎ 土耳其

ニューヨーク◎ 紐育

ノルウェー◎ 挪威

パナマ◎ 巴奈馬

ハノイ◎ 河内

パリ◎ 巴里

(十一頁に続く)



みづすましの座

歌仙「パンドラの筐」 本屋良子 捌

夏衣パンドラの筐かかへつつ

良子

袖の蛍の淡き点滅

了齋

封切の外国映画評判に

弘子

雑誌の並ぶコンビニの棚

ふみ

切妻の窓を開ければ小鳥来る

節子

自転車に乗り仰ぐ昼月

み

ウ 曲げわっぱ弁当ひらく菊師たち

弘

頭の娘十八になり

齋

馴れ初めは小指の棘と赤チンキ

み

酔にまかせて不意に求婚

節

依存症治療施設を出つ入りつ

齋

ジャラ銭ばかりポケットの中

み

寒月の斜面シュプールくつきりと

節

子からの電話ひどい風邪声

弘

芸人は自伝小説書きよども

全

青山墓地の抽選に漏れ

み

西東花に違ひのあるでなし

齋

雉高く鳴く畑の遠近

節

ナオ 春眠に後ろ姿の母がゐて

み

いま溜息をついた気がする

齋

重き荷の背負ひ始めを一年生

弘

半端ないのは僕の友達

良

夕焼に大きな旗のひるがへり

齋

祭囃子の届く路地裏

弘

惚れすぎて煩さがられる悪い癖

齋

抱かれてるときだけは安心

全

財産はすべて犬にと言ひ遺す

み

熱めのお茶と濡れ煎餅と

節

月光ダにうからやからの盆用意

弘

青松虫に眠られぬ夜

み

ナウ 杵柄のまだ衰へぬばい廻し

全

金庫の鍵はすべて特注

弘

平原の包に悠々暮らす人

齋

ギター爪弾き故郷の唄

み

荒城の昼はひたすら花ふぶく

良

海にはみ出すやうに連風

節

連衆 鈴木了齋 松原弘子 中村ふみ

長坂節子

げんごらうの座

歌仙「十葉」

吉田酔山 捌

十葉や露地を挟んで喜寿米寿

酔山

蜻蛉生まるる小流れの面

冬乃

アナウンサー声の少々上ずつて

忠史

お茶の加減が丁度頃合

泉子

新品の自転車磨く外は月

乃

納屋の奥には石の唐臼

山

ウ やや寒に薄き表着を足すならん

泉

稚児先頭に雲水の列

史

混浴の湯治場あればすぐ入り

山

スリーサイズをやつと聞き出す

乃

風疼く寅さんの恋また破れ

史

冬將軍の待ちかねた月

泉

甘納豆友とつまんで旅のバス

乃

どこへ行くにも籠にアメショー

山

海沿ひの店にはためく万国旗

泉

勝利監督人望のあり

山

楽しみの花の絵手紙届くらん

史

味噌まつたりと和へる山独活

乃

ナオ 見はるかす関東平野鐘かすみ

史

凝ったフラスコ持ち歩く奴

泉

ご同輩病氣の数で争つて

山

妄言虚言世界揺るがす

乃

舞台裏間髪入れず更衣

史

蒸し暑き夜にお渡りを待つ

泉

禁断の情呪ふかほととぎす

乃

再々婚もケーキカットで

山

趣味と才生かし朗読ボランティア

泉

こんなところに芳一の墓

史

妖怪をお供に月の砂漠越え

全

香りふりまき刻むまるめる

乃

ナウ 紅葉焚く煙まつすぐ立ち昇り

史

偵察ドローン庭に着陸

泉

町役場昼のチャイムの軽やかに

乃

転出届駆け込みで出す

泉

花植ゑる真顔笑顔の子ら集ひ

山

揺れるふらここ紫の里

史

連衆 百武冬乃 根津忠史 青木泉子

百卷の文学全集本棚に

相姦図化学記号のやうになり

頬なでてゆく風のやはらか

青木秀樹

こおひむしの座

歌仙「御朱印帳」

中林あや 捌

紫陽花や御朱印帳に雨雫

あや

汗抑へつつ墨を擦る僧

転石

足元へじやれつく猫を抱きあげて

葵

宅配便のトラックの音

美友紀

山の端をゆるり離るる望の月

通齊

南瓜の煮物つい焦げつかし

紀

ウ 「戦争と平和」読むやらそぞろ寒

齊

眼鏡をとつた横顔も好き

紀

初めての振り忘れちやう熱いキス

や

万年候補イグノーベル賞

石

揺れ止まぬ地震列島東西

齊

港々に冬鷗来る

紀

しはぶきに傾く月の木賃宿

葵

ピンクの鞆僕のですけど

や

マスコミはジェンダーフリー解説し

葵

年を取つたら程を知るかも

紀

咲き競ふ花の具合に上機嫌

石

大川端の風のあたたか

葵

ナオ 遠足の集合写真撮る係

紀

尻ポケットに帽子差しこみ

葵

キャプテンの放つ決勝本塁打

紀

惜しみ惜しまれ譲る天皇

齊

着ぐるみの中でうつかりひと眠り

や

氷室のこほり解けかつてる

葵

蜚飛びまとも占ふ男運

石

身八つ口より恋さぐりあて

齊

あいつにも妖怪図鑑貸してやり

全

イスラム教徒利子はとらない

石

月明り幾度も入れるパスワード

紀

稽古合せは終り地芝居

石

ナウ 出来たてのどぶろくの味評判に

齊

禁煙守りまだ二週間

葵

走り書き判読できぬ自分の字

紀

国旗の模様似たり寄つたり

石

花の宴関西訛のフランス人

や

ララバイ歌ふ春の夕暮

葵

連衆 林 転石 石川 葵 奥野美友紀

菅原通齊

みづかまきりの座

若林文伸 捌

歌仙「筆がへし」

筆がへし撫づるばかりや夏の月

文伸

庵の奥処に蜚舞ふ庭

雅子

一輛の気動車過る山裾に

孝子

フェイスブックの写真楽しむ

ひろみ

サッカーのゴールシーンを何度でも

徹心

霜柱踏む子等の長靴

孝

塩胡椒挽肉を練る料理番

全

至福の時間彼とあるとき

雅

小いとは何とかはゆき呼び名にて

伸

爪先上がり京の寺町

孝

新涼にひとつと決めて旅靴

心

殿様バツタ文に描き入れ

雅

十七夜秋狂言の尾を引きて

孝

刑事は睨む金の出所

雅

煙草屋の犬は必ず我に吠え

孝

風の埠頭に外国の船

み

幼児の掌よりこぼるる花吹雪

孝

礼拝の椅子きしむのどけさ

心

ナオ 蜂を飼ふ一家揃つて目指す北

孝

疎林の凹に伏せる狙撃手

み

熱々のスープゆつくり飲み干して

雅

かはりばんこに歯痛肩凝

心

逞しき胸に棲みつく人の妻

孝

風鈴が消す闇のささやき

心

打水に乾き鎮まる聲

雅

カステラの底ざらめぎつしり

孝

名札見て問へば生まれは福建省

み

声朗々と哀愁の歌

心

敗荷の姿怪しき月明り

み

老母の電話きれぬうそ寒

雅

ナウ 猿酒は誰にもありか見つからず

み

休日なれば通ふ菜園

孝

裏町に詩人の夢を切り売りし

雅

三原色を混ぜ合はす術

孝

花の影小魚は石の苔を喰み

心

摩天楼にも霞たつ頃

孝

連衆 武井雅子 坂本孝子 江津ひろみ

佐藤徹心

爪先上がり京の寺町

孝

新涼にひとつと決めて旅靴

心

殿様バツタ文に描き入れ

雅

十七夜秋狂言の尾を引きて

孝

刑事は睨む金の出所

雅

煙草屋の犬は必ず我に吠え

孝

善光寺門前連句会のこと

竹中禎子

今から七年前の夏、娘に誘われて、長野連句教室（善光寺門前連句会）に参加し、連句に出会いました。俳句も短歌も未経験、新しいことに挑戦するのは元々苦手、しかも娘と一緒に随分気恥ずかし、何故参加できたのか、自分でもよくわかりません。

初参加の時のご連衆は女性ばかり数人、お捌は二村文人先生でした。何が何やらさっぱりわからないままでしたが、二十韻を三ヶ月がかりで巻いたと思います。とにかく時間がゆつたりとしていたこと、二村先生について恐れ多くも「大人^{たいじん}というのはこういう人を言うのだなあ」と思ったこと、そして付けや転じがとても楽しかったことなど印象深く思い出されます。

二村先生からは期間にして一年弱、数回だけしかご指導いただけなかったのですが、連句について本当に基本的なこと大切なことを実作のなかで懇切丁寧にお教えたいただきました。今になって、ああこのことだったのかとやっと得心できることが多々あります。そうした新たな発見の喜びが今後も私の大きな支えとなることでしょう。何より全く頓珍漢だった私でも、連句の世界を楽しんでいいのだと暖かく見守り続けて下さったこと感謝に堪えません。

二村先生との突然のお別れは本当に悲しく寂

しく、その理不尽は未だに無念でなりません。そもそも長野で連句教室、連句会が開催されるに当たっては、二村先生と当時長野県立短期大学で教えておられた平林香織先生との出会いがその発端だったと聞き及んでいます。お二人は連句のお仲間でもあり、松代藩第六代藩主真田幸弘侯の大名俳諧の調査研究で一緒にされたこともあり、平林先生が二村先生に長野で連句の実作のご指導をお願いし、快くお引き受けいただいて連句教室の開催に至ったそうです。

その後、会の名前を善光寺門前連句会と改め、二村先生亡き後を鈴木千恵子先生に引き継いでいただき、今日に至っております。それから六年、平林先生と共に二ヶ月に一度の句会には必ず東京からご参加くださり、ご指導頂いております。

新型コロナウイルス感染予防のため直接お会いしての連句会はお休みしていますが、平林先生のご提案・設定でこの五月、七月とオンラインでの連句会ができました。コミュニケーションのぎこちなさは否めないものの、たとえ画面上だけでも顔を見る事ができ、声が聞こえるのは本当に大きな安心でした。普段、長野まで来にくい方々の参加もあり、とても刺激的で楽しく巻くことが出来ました。連句会は奇数月ごとに開催していますが、対面でできない間はオンラインで開催の予定です。皆様どうぞ一度覗いてみてください。

善光寺門前連句会は発足してから七年有余とまだまだ日も浅く、会としての約束事も特にな

『信濃毎日新聞』2019年10月19日。本文にあるように連句協会サイトで紹介されており《<https://renku-kyokai.net/2019/10/50926/>》、拡大するとお二人の文章も読める。鉄太郎さんによる的確な連句の説明と、麟太郎さんの「初めての句会にはちょっといいノートと筆ペンを持って行きました」が出色。

く、有志が都合の良い日を合わせて、連句を巻くという誠に緩い集まりです。何年たっても式目もおぼつかなく、度々同じ障りを繰り返す連衆に、内心呆れておられるかもしれません。が、倦まずたゆまずご指導くださっている鈴木千恵子先生と平林香織先生には感謝あるのみです。平素お二人には甘えてばかり軽口ばかりの私ですが、この場をお借りして心より御礼申し上げます。二ヶ月に一度、土曜か日曜の午後の四時間開催し続けられてきたことは本当に言祝ぐべきことと存じます。

連衆は、十代から七十代までの老若男女入り混じりまして八十名位の皆さんです。常連は



麟太郎さん(写真中央)、鉄太郎さん(右)。小学校六年生当時。

季照さん、清佳さん、鷹紀さん、竹仙さん、鉄太郎さん、はらつばさん、好美さん、輪菊さん、麟太郎さん、と私。連句でなければいけない会いできなかつた皆さんとの出会いは大いなる喜びであります。いつもは、その時の人数で一卓か二卓、二十韻か歌仙を巻いています。

常連の中で麟太郎さん、鉄太郎さんが中学一年生で双子のご兄弟です。たまたまお二人のお母さまの清佳さんと私が職場で机が隣り合わせだったことをきっかけに、三年ほど前、小学四年生の時から参加してくださるようになりました。元々信濃毎日新聞の子供俳壇に投稿されるなどしていたお二人。お試しに薫風庵(平林先生旧宅)で初めて一緒に半歌仙を巻いた時から、素晴らしい速さでポンポンと詠まれるお二人に大人一同は圧倒されるばかりです。

二十韻「鈴蘭や」

鈴木千恵子 捌

鈴蘭やスキップをするランドセル 香織

風薫る中オレンジの靴 清佳

自分へのご褒美ひとつ店先に 禎子

鳥のかたちの飴細工買ふ 鉄太郎

指先に秋の蚊とまる望の月 麟太郎

手と手をつなぎ時代祭へ 鉄

濁り酒酔つたふりして口説かせる 千恵子

唄が自慢の島の人々 禎

すべて捨て日がな一日糸垂らす 全

置いてけ堀は七不思議なり 千

ナオ サンタから英語で書いたカード来る 麟

露天風呂にて仰ぐ凍て月 鉄

牛乳を飲むとき腰に手をあてて 麟

鏡に向かひ拭ふ白髪 鉄

無理やりにキス迫つてはいけません 千

女と魚にコイの餌撒く 麟

ナウ 今太閤描いた夢の跡残る 禎

遠足お菓子二百円まで 鉄

ヘリコプターのかき混ぜてゐる花吹雪 千

山上遠く望む初虹 禎

連衆 平林香織 村上清佳 竹中禎子

村上鉄太郎 村上麟太郎

平成三十年五月二十七日 首尾

於 芹田公民館

お二人を通して、誰でも楽しめる連句の力を改めて痛感しています。その活躍ぶりは、令和

元年十月十九日『信濃毎日新聞』「兄弟で遊ぶ連句のおもしろさ」で大きく取り上げられました。(連句協会のホームページ「協会だより」でも記事をご覧ください)。そのときの取材がきっかけで、鷹紀さんが連衆になってくださいました。麟太郎さんは熟考型、鉄太郎さんはひらめき型、あたりまえのことですが、双子ながら付け筋も付け味も異なります。麟鉄兄弟が加わると、一段と座が盛り上がります。お二人は鈴木先生のお捌で国民文化祭への募吟も続いています。

長野は連句ゆかりの先人との縁がある地と聞いています。私たち善光寺門前連句会も偉大な先人の皆様に繋がっていきますよう精進してまいりたいと思います。

これまでも鈴木先生、平林先生のお引き合わせで、猫蓑会の会員の皆様とも何人か長野で一緒にさせていただきました。猫蓑会の方が入られると何故か楽々歌仙が巻ける気になります。長野の風土か、連衆の性格か、毎回充実する茶菓(日本一豪華とか。あまりの豪華さに自粛要請が出されましたが、一向に収まりません)、十一月二十三日に開催される毎年恒例の冬の花火(長野えびす講煙火大会)を暖かい会場から見ながらの実作会、お正月にはお酒付きなど連句以外のお楽しみもたくさんあります。コロナが収束しましたら是非皆様お出かけ下さい。

筆者・竹中禎子・六十五歳・長野市在住・連句歴七年・趣味スキー、読書

雪鬼の座
歌仙「平成も」

橋 文子 捌

平成も三十年なり初懷紙

文子

御代の春祝ぎ集ふ連衆

秀夫

水温む出船は何処指すならん

豊美

あくびのどかに犬の尾を振る

壽子

碁に勝ちてほてり冷ませば臘月

醉山

老舗饅頭長き行列

夫

ウ
髯教授内科学会会長に

山

蛍光ペンでなぞる要点

豊

涼やかな壁ドンスタイルしてみたし

壽

奪つて候友の恋人

全

綺麗なる言葉を探す別れ際

夫

スキップステップ軽やかな技

壽

赤とんぼ追うていつしか背戸の山

夫

おくんち果てて月の淋しげ

豊

そぞろ寒大統領の好き勝手

山

インスタ映えを少し気にする

豊

天へ散る花の行方のきりもなし

壽

網の中には大き浮鯛

山

ナオ
朝寝して妖怪変化笑まふ夢

豊

すぐに忘れるけふの運勢

夫

組み立てた戦艦ヤマトを壊されて

豊

少年剣士早も昇段

山

母を呼ぶ凍鶴の声遠きより

夫

平成三十年一月十四日 首尾
於 ホテルグランドヒル市ヶ谷

爛酒過ごし電柱を抱く

山

雷烈しあつけらかと妻はS

壽

血潮したたる紅き唇

夫

裁判の財産分与結審か

豊

飛行機部品落ち易いもの

山

月影はトプカブ宮殿照し出し

夫

相撲疑惑のまだやまぬまま

山

ナウ
阿波踊どうせ阿呆と類被

豊

にらめっこする遊戯終了

壽

西郷どんと海舟さんと密会す

豊

開発進む電気自動車

山

爛漫の花の下にて舞ふ女形

文

青帝様はひむがしの窓

壽

連衆 田中秀夫 高橋豊美 杉山壽子

吉田醉山

風花の座

歌仙「斧始」

林 転石 捌

斧始ちやうと打ちこむ手応へは

転石

折敷に飾る大き伊勢海老

淳子

児の笑顔三連休のファミレスに

幸子

きらきらネーム誰も読めない

明子

月の出の動物園は騒がしく

佳之子

気楽気ままな独り身の秋

功

ウ
那智熊野谷の紅葉を踏み分けて

之

風神雷神天地鳴動

功

おとなびて見える少女の筆使ひ

明

すねて跳ねてもいつか掌

功

ほだされて極秘情報ついぼろり

之

夜遊び好きと人の噂に

淳

フイヨルドを行くクルーズの月涼し

幸

梅酒サワーでまずは乾杯

淳

検診の数値いちいち説明し

明

わけ知り顔に仔犬尾を振る

淳

自転車ギアチェンジする花の下

明

風船売りは今日もご機嫌

淳

ナオ
炬塞ぎの頃は静かな山の村

明

涙垂れ小僧既に絶滅

功

かはたれ時夕餉の匂ひ懐かし

幸

柑橘系できめてみようか

功

ちらほらと誤字脱字ある借用書

淳

聞き込みに来た刑事イケメン

全

骨までもあなたの愛にとろけさう

功

牡丹燈籠札をはがして

全

底冷えの部屋のレコード払ふ塵

明

名跡襲名挙げる看板

幸

月皓と銀座八丁照らしをり

淳

かぼちやのタトゥー太き二の腕

功

ナウ
露天風呂つくつくぼふし出迎えて

之

卓球台の予約満杯

明

お汁粉をおごつた仲の留学生

淳

日本語研修生の軽やか

幸

キャプテンが面舵を取る花の波

石

あてなくぶらり歩む雲雀野

之

連衆 上月淳子 飯島幸子 野口明子

染谷佳之 松本功

第百四十四回猫養会例会作品
平成三十年初懷紙 歌仙5〜8

雪女郎の座

歌仙「八幡めでたき」 内田遊眠 捌

市ヶ谷の八幡めでたき初懷紙

遊眠

飾納の百福の印

あき子

懇親会公魚釣りの豊漁に

有子

海老根をそつとしまふ胴乱

肇

昼月を追ひつ追はれつ春スキー

利子

人気ラーメン列の長々

有

ウ 西へ西へ單車連ねて絹の道

全

美姫の玉肌ぎよみを飽かず眺むる

肇

戯れにだーっうさんを振りもして

利

紺屋二階に響く三味の音

肇

蝮にも咬まれたことを自慢する

有

縛られ地蔵にそつと願掛

あ

財産を月夜の賽に賭け尽し

肇

蟪蛄斧を振り上げたまま

有

目力の残つてゐたり捨て案山子

あ

脳科学者はアフロヘアーで

全

クロインの染井吉野の花を愛づ

有

松露の香氣厨いっぱい

利

ナオ 師の曰く亀の鳴き声高貴なり

有

ベストセラーの本を再読

利

西郷どんは日本男子の宝です

あ

尾羽うち枯らし売った骨董

肇

この次は俺が騙すぞ雪女

有

寒九の水を口移しにて

利

テキーラは恋の炎のエネルギー

肇

ふたりで地球揺らすこのとき

有

白垂紀の恐竜探す探検隊

肇

日誌に残る読めぬラテン語

有

まろまろとスーパームーン山の端に

あ

添水聞こゆる尼寺の庫裡

全

ナウ 亡き母の思ひ出宿る秋扇

利

木曾駒の群遠く見やりぬ

あ

石垣を積んで直して接ぎ造り

肇

足元注意「よし」と掛け声

全

幕裏に舞楽面ある花の宴

眠

パン焼きたての麗らかな朝

執筆

連衆 岩崎あき子 佐々木有子 宇田川肇

武村利子

※名古屋弁で粋な男（だやあつうさん）のこと

六花の座

歌仙「初湯かな」

石川 葵 捌

素のうれし枷はづしたる初湯かな

葵

ゆらりゆらりと繭玉の枝

忠史

かくれんぼもういいかいと声のして

健

赤いスニーカーチームおそろひ

霞

収穫を終へてまどかな里の月

冬乃

味が自慢の父のころ柿

乃

ウ 日本中掛けちやいけな霞網

史

キスの予感に胸はどきどき

霞

来てくれる白馬に乗った王子様

史

曲り角ではいつも渋滞

乃

前を行く他校ランナー見失ひ

史

闇も蛭も退けて月

霞

厨にてかくれ冷酒ご住職

健

杉玉鉄砲みごと命中

霞

えいほうとお猿の駕籠屋石畳

史

観光ガイド三か国語で

乃

花盛り世界遺産へ誘ひあひ

史

団扇造りは名人の技

健

ナオ 砂浜に小貝を拾ひ弥生尽く

乃

混声合唱揃ひのびやか

霞

鈴鳴らし金剛杖の富士行者

史

ちよつかいだせばボスの愛人

全

流し目に釣られ大枚払はされ

健

雪ばんば出る北のふるさと

乃

鯰に呼ばれて沖に起こる雷

全

神経衰弱孫にせがまれ

史

DNA組してみたい大統領

霞

メビウスの輪のいたく不可解

全

月明に照らし出さるる兵馬俑

健

案山子の顔はどれもへのへの

史

ナウ 飛び入りで外人記者も村芝居

乃

プラチナチケット効かず付度

健

友あれば酒は飲むべし語るべし

乃

未来の夢を託すAI

健

百福の軸の寿ぐ花の席

葵

髭の宗匠ステッキの春

執筆

連衆 根津忠史 由井健 高塚霞

百武冬乃

第四百四十四回猫蓑会例会作品
平成三十年初懐紙 歌仙9

雪見酒の座

歌仙「寒の水」

御園魚彦 捌

かはたれの寒の水汲む厨かな

魚彦

窓を開けば香る早梅

美智子

姉妹連弾の指軽やかに

香織

薄きグラスの葡萄酒の揺れ

了斎

駅頭へぼつかり昇る望の月

通斎

棕の埒に耳ふさぎ行く

斎

秋の寺寝転んで見る鳳凰図

織

いつも隣に君がゐた頃

斎

イニシャルを刻む揃ひのペンダント

織

監視カメラはみんな知ってる

通

読みかけの文庫を閉ちて毛糸編む

智

凍月仰ぎ帰り来る爺

織

アルプスの少女ハイジは夢の中

全

白い仔山羊と遊ぶ坂道

斎

扉の内の黒人霊歌盛りあがり

通

雲の上には何があるだろ

斎

すめらぎに深く礼する花衣

智

つけっぱなしのテレビのどらか

織

ナオみちのくへお座敷列車春の旅

通

仮設に通ふボランティア医師

織

お返しのお返しをする義理堅さ

全

生物界の食ひつ食はれつ

彦

エイの腹見上げてはしやぐ夏休み

智

爽楽庵豆知識……………④ 熊本弁入門

熊本弁の特徴と、その実例を少しだけご紹介
します。

●古語や漢語がそのまま残っている

むしゃんよか（武者良か） かつこいい

あげもす（あげ申す） 差し上げる

いばしか 荒っぽい

この頃流行る女子のすててこ

織

蔵あさり出でしは閨の指南本

智

ヨガするやうに抱き合つてみる

斎

等身大骨格模型しやらしやらと

智

耳なし芳一孫に聞かせて

通

月消えた後の真闇をまさぐりぬ

斎

敗戦の日の夜に点す灯

全

ナウ町衆に芋の子汁をふるまひて

織

やさしくゆらぐせせらぎの音

斎

外宮から内宮巡るお伊勢さん

織

高い閨を思ひきり飛ぶ

智

極まりて崩るる波頭花の散る

彦

ちんちん電車つつむ糸遊

通

連衆 聖成美智子 平林香織 鈴木了斎

菅原通斎

はいよ（拝領） しててください「いつまっ

でん元気でいてはいよ」

●強意の接頭辞や接尾辞が多い

うち食う 食べる

きやあ戻る 戻る

さでこくる ころがる・こける

つん切るる （思わず）切れてしまう

びつしゃぐ 押し潰す・ぺしゃんこにする

はち割る （思わず）大事な物を割る

●撥音「ん」が多い

どぎゃんもこぎゃんも どうにもこうにも

いっちゃん ひとつちも「いっちゃん知らん」

いつでんよか いつでもいい

●紛らわしい語・意味の分かりにくい語

かつてくる 借りてくる

こうてくる 買ってくる

ふとか 太い・背が高い

こまか・こまんか 小さい・背が低い

むぞらしか 可愛い

おっぺしちゃん 不器量

がまだす 頑張る・精を出す

ぞうくる ふざける・からかう

あとぜき 出入りの後、戸などを閉める

●冗談のような実話

昔、姪が映画『ローマの休日』を見た帰り、「主人公のオードリー・ヘップバーンが素敵だった」と近所のおばさんに伝えると、そのおばさんが、「何て？ おーんどりゃーへっふるばんでな」

おーんどりゃー お前は

へっふるばん 尻を振りまくぞ （以上）

平成三十年一月十四日 首尾
於 ホテルグランドヒル市ヶ谷

温故知新

21 ラヴィ・シャンカル 序破急

ラヴィ・シャンカル（一九二〇～二〇一二年）は、北インド古典音楽を代表するシタール奏者、作曲家。一九六〇年代に、ザ・ビートルズをはじめとする欧米のロックやジャズに大きな影響を与え、ジョージ・ハリスンにはシタール演奏を直接指導している。クラシック音楽その他とも盛んに交流した。筆者は、日本の尺八奏者・山本邦山、箏奏者・宮下伸と共演したコンサートを聴きに行ったことがある。その顔ぶれで『アジアの出会い』というアルバムも出た。

余談だが、現代アメリカを代表する女性ジャズ歌手の一人、ノラ・ジョーンズは、ラヴィがアメリカ人女性と結婚して儲けた娘だ。ノラの誕生後すぐ離婚し、その後儲けた異母妹、アヌーシカ・シャンカルは、イギリス在住の父のもとでシタール奏者として後を継いでいる。姉妹は没交渉のまま成長したが、ラヴィの没後一年目にグラミー賞の功労賞が遺贈された際、共に受賞式に出席し、その後はコラボレーションアルバムを出すなど交流が続いている。

ラヴィは、楽譜として固定された曲も作曲したが、インドでは本格的な古典音楽はすべて即興演奏で、楽譜通りに繰り返し演奏される曲は格下の通俗音楽という位置づけだ。座の即興による芭蕉の俳諧のほうが、西鶴の物語より格上

の文芸と見なされていたことと似ている。

即興演奏のために、それぞれ特定の技法（上行と下行で音階が異なる）や中心音、特徴的な音の動きなどを伴う「ラーガ」（「心を彩るもの」を意味する言葉）というものが数多くあり、「タール」という様々なリズムパターンもあり、演奏はその二つを組み合わせて行う。季節や時宜、時分により、使うべきラーガが定まっている。ラーガは基本的なものだけで数百種、全部で三千種以上あり、タールも数百ある。ただしラーガやタールは「テーマ」といったものと結びついているわけではない。抽象的、純理論的な位置づけのものだ。シタールの即興は、音程を操作できるタブラーという打楽器と、伴奏専用の弦楽器を伴って演奏される。

それぞれの即興は、明確な「序破急」の流れに従って展開される。シタールと似た「ヴィーナ」という弦楽器を中心にする南インドの古典音楽では、序破急の変化はさほど明確なテンポの変化としては表現されない。しかし北インド古典音楽では、演奏はゆっくりしたテンポで始まり、しだいにテンポを速め、最後はヘヴィメタルの早引きギターも顔負けの速度で終わる。わかりやすい、文字通りの序・破・急だ。

琴の演奏を中心テーマの一つとして展開する平安朝物語文学の長編『宇津保物語』、あるいは『源氏物語』でも、楽器演奏場面の描写を読むと、多くは現代の固定された「曲」のようなものではなく、やはり即興演奏のように思われる。そこで使われる「手」という言葉は、ラー

ガに似た概念ではないだろうか。それに依拠して即興で合奏することもできるようだ。

東洋の古典音楽に限らず、キース・ジャレットやアブドゥラ・イブラヒム（タラー・ブラインド）などによるジャズピアノの即興独奏も、多くはゆるやかなテンポで粛々と始まり、次第に盛り上がり、最後は軽やかに早いテンポで終わる形が多い。即興のジャズ合奏、ジャムセッションも同じで、いきなり最高潮のテンションで始まるなどということはない。それでは即興で互いの調子を合わせることが不可能だろう。即興音楽の展開が「序破急」の流れになるのは「即興」に必然的に伴うありかたで、音楽だけに限らないことではないかと思う。

歌仙を巻くとき、「序」の表六句は全体の六分の一の句数だが、一卷にかかる時間の三分の一近くをそこに費やすことが多いだろう。反対に最後の「急」の名残裏六句は、表と同じ句数なのに、十分もかからずに巻き上げてしまふこともある。シタール即興演奏の時間配分も、おおむねそのような感じだ。

「序破急」を理屈で考えるより、こうした即興の音楽を聞き慣れ、体がそれを覚えることの方が役に立つのではないだろうか。歌仙の「序破急」も、テンポに限らず内容も含め、自然に、考えるまでもなく展開できることが理想だ。

「序破急」という音楽的な流れの指標と、「句数と去嫌」という絵画的な布置の規範、この二つは、連句の即興的展開のための最も重要な導きの糸だ。この二つをぜひ身体化したい。（斎）

事務局だより

●第百五十三回猫養会例会（猫養会総会）が開催されました

・七月三十日（木曜日）、江東区芭蕉記念館にて開催。
五卓に分かれて歌仙を興行しました。

●今号に掲載の猫養会既往定例行事作品

・平成三十年一月ホテルグランドヒル市ヶ谷にて開催の第百四十四回猫養会例会（初懐紙）歌仙九巻。
・平成三十年六月新宿ワシントンホテル新館にて開催の第二十八回猫養会同人会歌仙七巻。
・令和元年六月新宿ワシントンホテル新館にて開催の第二十九回猫養会同人会歌仙五巻。
・令和二年六月新宿ワシントンホテル新館にて開催の第三十回猫養会同人会歌仙五巻。

●既往定例行事の未掲載作品

・第百四十六回猫養会例会（猫養会総会）歌仙七巻。
・第百四十八回猫養会例会（初懐紙）歌仙七巻。
・第百五十回猫養会例会（猫養会総会）歌仙七巻。
・以上の各作品は次号以降に順次掲載の予定です。

●今後の行事予定

・令和二年十月二十一日（水曜日）第百五十四回猫養会例会（芭蕉忌・明雅忌）。江東区芭蕉記念館。
・令和三年一月二十四日（日曜日）第百五十五回猫養会例会（初懐紙）。アルカディア市ヶ谷。

●令和二～三年度猫養会運営体制

・会長 青木秀樹
・副会長 鈴木了斎

・理事 林 転石

武井雅子
佐々木有子

鈴木千恵子
平林香織（新任）

・同人会長 坂本孝子
・顧問 東 郁子

●新会員

・小原全然（茨城県） 令和二年七月入会

●令和二年度新同人会員

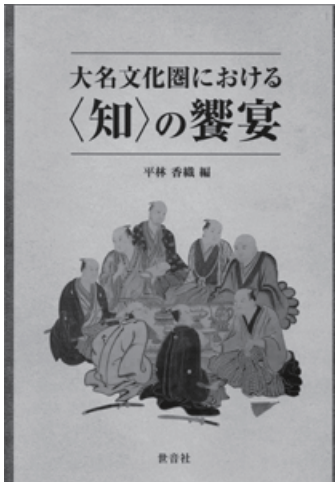
・箭内敏枝（群馬県） ・荒木 鑑（東京都）

●リモート（Zoom）連句会の案内

九月二十六日（土）午後一時～五時の「Zoom 善光寺門前連句会」に参加を希望される方は、平林香織《Khira884@gmail.com》までご連絡ください。別途、Zoomの事前練習会もあります。

●会員の出版

『大名文化圏における〈知〉の饗宴』平林香織編
江戸時代の大名諸家の和歌・俳諧・文化活動の研究書。共著者の一人、奥野美友紀も猫養会同人。



定価 3,200（税別）
令和二年（2020）三月二十六日
世音社刊
表紙・裏表紙は佐藤一斎賛「読園識集図」

●会員の転居

・上月淳子 神奈川県川崎市内で転居。

●猫養基金にご協力ありがとうございます

・匿名 令和二年八月 一万円

基金口座 みずほ銀行新宿新都心支店

猫養基金 普通預金 3376045

●各種募吟にふるって応募ください

・第三十五回国民文化祭みやぎ2020連句大会
募集形式・歌仙 応募締切・九月三十日に延期。

●『猫養通信』バックナンバー

猫養会公式サイト《<http://www.neko-mino.org/>》にて、すべて閲覧、ダウンロードできます。

●前号訂正

十七ページ中段「連句上の……」一行目「山梨県原村」は「長野県原村」。お詫びして訂正します。

季刊

『猫養通信』第百十三号
令和二年九月十日発行

発行人 猫養会 青木秀樹

〒182-0003

東京都調布市若葉町2-21-16

編集人 鈴木了斎

編集委員 奥野美友紀・佐々木有子・鈴木千恵子・高塚霞・武井雅子・平林香織・御園魚彦

印刷所（五十音順）

印刷所 印刷クリエイト株式会社